

ISSN 1880-8867



BULLETIN OF FACULTY OF NURSING
HIROSAKI GAKUIN UNIVERSITY

弘前学院大学

看護紀要

第16卷

Volume 16

2021

目 次

〈研究報告〉

Team-Based Learningにおける看護学生のピア・フィードバックの認識と課題	齊 藤 史 恵 1
	木 田 優 子

幼児期・青年期の多胎児をもつ母親の育児不安内容

— 2つの事例から見えてきた育児への思い—	高 橋 琴 乃 13
	木 村 絢 芽
	川 村 泰 子
	佐 藤 厚 子

褥瘡による組織損傷に関する形態学的研究

小 野 綾 23
渡 辺 皓

〈そ の 他〉

採血や点滴を受ける子どもの親に関する文献検討

— 親の思いと援助に焦点を当てて—	木 田 優 子 35
	齊 藤 史 恵

冠攣縮性狭心症患者由来 iPS 細胞を用いた病態の解明; p122RhoGAP/DLC-1 と

phospholipase C の役割	田 中 真 実 45
	長 内 智 宏
	奥 村 謙
	富 田 泰 史
	吉 岡 利 忠

弘前学院大学看護学部紀要 投稿規程

(目的と名称)

第1条 弘前学院大学看護学部（以下、本学部とする）は、本学教員の学術研究の奨励およびその成果を発表するために「弘前学院大学看護学部紀要」（以下「紀要」とする）を定期的に刊行する。

(発行)

第2条 本紀要の発行は、原則として年1回とする。

(投稿資格者)

第3条 筆頭著者は、1) 本学の専任教員、2) 非常勤講師、3) 看護学部紀要編集委員会（以下「委員会」とする）が認めた者、とする。

(投稿論文の受付および審査)

第4条 投稿原稿は他誌に未掲載でかつ投稿中ではない論文に限る。ただし、以下の場合は二重投稿とみなさない。

- 1) 大学の学士論文、修士論文、博士論文（既に機関リポジトリに全文を公開している論文は除く）
- 2) 科学研究費報告書、事業報告書
- 3) 学会・研究会の抄録集として発表した研究を論文とする場合

2 原稿の受付期間は前もって委員会より通知する。

3 提出先は事前に指定する委員会担当者とする。郵送の場合は期限当日の消印有効とする。

4 投稿原稿の採否は紀要委員会および紀要委員会が依頼した査読者（学外を含む）による査読を経て、紀要委員会が決定する。

5 紀要委員会の審査により、原稿の修正、削除、加筆および原稿の種類の変更を著者に求めることがある。

6 原稿の掲載順、印刷様式は委員会が決定する。

- 1) 投稿原稿受付 E-mail アドレス：kango-kiyou@hirogaku-u.ac.jp

(著作権)

第5条 掲載論文の著作権は本学部に帰属し、論文の電子化は了承されたものとする。ただし、著者が当該論文を利用する場合は本学部の許諾を必要としない。

(経費負担)

第6条 原則として無料とする。別刷りは30部まで無料とし、30部を超える部数については自己負担とする。

(著者校正)

第7条 査読を経て、委員会で受理された投稿原稿については著書校正を1回行う。校正の際には委員会からの修正依頼以外の著者による加筆・修正は認めない。

(倫理的配慮)

第8条 人および動物が対象の研究は、当該研究領域の適切な倫理指針に従って計画され、倫理委員会で承認されたものでなければならない。また、本文中にはその旨および承認番号が明記されなければならない。

(利益相反)

第9条 利益相反の有無については、末尾の引用文献リストの前に付記すること。なお、利益相反に関しては「厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest: COI）の管理に関する指針」等を参照すること。

(原稿執筆要領)

第10条 原稿執筆要領は別に定める。

附則

- 1) 2005（平成17）年10月13日 制定
- 2) 2020（令和2）年10月1日 一部改訂

編集後記

経験豊富な前委員長に代わり、若輩者の委員長ではありましたが、各方面からのサポートをいただきながらなんとか発行にこぎつけることができました。

今年度は新型コロナウイルス感染対策関連で、学内行事はもとより講義や実習などこれまでになく対応を余儀なくされた1年でした。もちろん研究活動にも大きな影響があったと思いますが、そのような中で地道に活動を続け、研究成果を投稿して下さった皆様には心よりお礼申し上げます。

また、今年度の紀要委員会では「投稿規程」を15年ぶりに一部改訂し「執筆要領」も作成しました。投稿を検討されている方々にも解りやすく、迷いなく論文作成ができるよう心掛けたつもりです。今後も必要であればどんどん良いものに改訂していく所存ですので、紀要委員会までご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、弘前学院大学「看護紀要」第16号の発行にあたり、査読、編集、校正の作業にご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。

2021年3月31日

弘前学院大学紀要委員会

委員長 館山 光子

弘前学院大学紀要委員会

佐藤厚子, 大瀬富士子, 阿部智美, 田中真実, 館山光子

弘前学院大学 看護紀要 第16巻

2021年3月31日 印刷

2021年3月31日 発行

編集者

弘前学院大学看護学部紀要委員会

発行所

弘前学院大学看護学部

〒036-8231 弘前市稔町20-7

印刷所

やまと印刷株式会社

〒036-8061 弘前市神田4丁目4-5

BULLETIN OF FACULTY OF NURSING
HIROSAKI GAKUIN UNIVERSITY
Volume 16, 2021

CONTENTS

RESEARCH REPORT

*NURSING STUDENTS' PERCEPTIONS AND CHALLENGES OF PEER FEEDBACK IN
TEAM-BASED LEARNING* FUMIE SAITO 1
YUKO KIDA

*CHILD-REARING ANXIETY OF MOTHERS WITH MULTIPLE BIRTHS IN EARLY
CHILDHOOD AND CHILD-REARING ANXIETY OF MOTHERS WITH MULTIPLE-BIRTH
CHILDREN IN EARLY CHILDHOOD AND ADOLESCENCE
-CONSIDERATIONS FOR CHILDCARE REVEALED FROM TWO CASE STUDIES-* KOTONO TAKAHASHI 13
AYAME KIMURA
TAIKO KAWAMURA
ATSUKO SATOH

MORPHOLOGICAL STUDY OF TISSUE DAMAGE FROM PRESSURE INJURY AYA ONO 23
HIROSHI WATANABE

OTHER

*A LITERATURE REVIEW ON PARENTS OF CHILDREN UNDERGOING BLOOD SAMPLING OR
RECEIVING INTRAVENOUS FLUID
-FOCUSING ON PARENTS' THOUGHTS AND SUPPORT PROVIDED FOR THEM-* YUKO KIDA 35
FUMIE SAITO

*EXPERIMENTAL STUDY FOR ELUCIDATING MECHANISM OF CORONARY SPASM USING IPSC;
ROLE OF P122 RHOGAP / DLC-1 AND PHOSPHOLIPASE C* MAKOTO TANAKA 45
TOMOHIRO OSANAI
KEN OKUMURA
HIROFUMI TOMITA
TOSHITADA YOSHIOKA